

岩岡中正教授略歴・著作目録

略 歴

- 一九七〇年 三月 九州大学法学部卒業
- 一九七〇年 四月 九州大学大学院法学研究科修士課程（政治学専攻）入学
- 一九七二年 三月 同課程修了（法学修士）
- 一九七二年 四月 九州大学法学部助手に採用（一九七三年三月まで）
- 一九七三年 四月 九州大学大学院法学研究科博士課程（政治学専攻）入学
- 一九七六年 三月 同課程単位取得退学
- 一九七六年 四月 九州大学法学部助手に採用（一九七七年三月まで）
- 一九七七年 九月 ロンドン大学LSE大学院留学（研究生、一九七九年三月まで）
- 一九七九年 四月 日本学術振興会奨励研究員（一九七九年十二月まで）
- 一九八〇年 一月 熊本大学法学部講師に採用
- 一九八一年 四月 熊本大学法学部助教授に昇任
- 一九九〇年 一月 熊本大学法学部教授に昇任。大学院法学研究科修士課程担当
- 一九九一年 七月 博士（法学）（九州大学）
- 一九九二年 一月 大分大学大学院教育学研究科兼任講師
- 一九九七年 四月 熊本大学法学部公共政策学科長（一九九九年三月まで）
- 一九九九年 四月 熊本大学五高記念館長併任（二〇〇三年三月まで）

- 二〇〇一年 四月 熊本大学生涯学習教育研究センター長併任（二〇〇三年三月まで）
 二〇〇二年 四月 熊本大学大学院社会文化科学研究科博士課程担当
 二〇〇三年 四月 熊本大学附属図書館長併任（二〇〇五年三月まで）
 二〇〇六年 四月 熊本大学評議員併任（二〇〇八年三月まで）
 二〇〇八年 四月 熊本大学大学院社会文化科学研究科副科長併任（二〇一〇年三月まで）
 二〇一〇年 四月 熊本大学大学院社会文化科学研究科科長併任（二〇一二年三月まで）
 二〇一三年 三月 熊本大学法学部定年退職

学会活動

- 日本政治学会会員（一九九八～二〇〇〇年、理事）
 政治思想学会員（一九九七～一九九九年、理事）
 日本イギリス哲学会会員（二〇〇八～一〇年、理事）
 九州法学会会員（一九九七～一九九九年、理事）

著作目録

著書

- 一 『詩の政治学——イギリス・ロマン主義政治思想研究』 木鐸社、一九九〇年
- 二 『転換期の俳句と思想』 朝日新聞社、二〇〇二年
- 三 『ロマン主義から石牟礼道子へ——近代批判と共同性の回復』 木鐸社、二〇〇七年（平成一八年度熊本大）

学術出版助成)

- 四 『虚子と現代』 角川書店、二〇一〇年（第一一回山本健吉文学賞）
- 五 『子規と現代』 ふらんす堂、二〇一三年（平成二四年度熊本大学学術出版助成）

編 著

- 一 中村直美・岩岡中正編著 『時代転換期の法と政策』 成文堂、二〇〇〇年
- 二 岩岡中正・伊藤洋典編著 『地域公共圏』 の政治学』 ナカニシヤ出版、二〇〇四年
- 三 岩岡中正編著 『石牟礼道子の世界』 弦書房、二〇〇六年

論 文

- 一 「コウルリッジの初期政治思想」 『政治研究』 二二号、一九七三年
- 二 「二つの『俗人説教』におけるコウルリッジの政治思想」 『政治研究』 二二号、一九七五年
- 三 「S・T・コールリッジ『教会と国家』論——コールリッジ政治思想続篇」 『政治研究』 二四・二五合併号、一九七八年
- 四 「『シントラ協定論』におけるW・ワーズワスの政治思想」 『熊本法学』 三〇号、一九八一年
- 五 「イギリス・ロマン主義政治思想覚え書——シェリーとコールリッジ」 『熊本法学』 三六号、一九八三年
- 六 「R・サウジー政治思想覚え書」 『熊本法学』 四二号、一九八四年
- 七 「詩の政治学——イギリス・ロマン主義政治思想覚え書」 『熊本法学』 四九号、一九八六年
- 八 「イギリス・ロマン派の政治思想」 山下重一編著 『近代イギリス政治思想史』 木鐸社、一九八八年、所収

- 九 「ロマン主義の思想構造——イギリス・ロマン主義政治思想覚え書」『法学と政治学の諸相——熊本大学法学部創立十周年記念』成文堂、一九九〇年
- 十 「共同性の諸相——イギリス・ロマン主義」柏經學・小山勉・松富弘志編著『近代政治思想の諸相』御茶の水書房、一九九四年、所収
- 一一 「ロマン主義における共同性」『政治研究』四一号、一九九四年
- 一二 「思想史における一九六八年」岡本宏編著『一九六八年——時代転換の起点』法律文化社、一九九五年、所収
- 一三 「個性と共同性——思想史からのアプローチ」清正寛・丸山定巳・中村直美編『現代の地域と政策』成文堂、一九九七年、所収
- 一四 「知のパラダイム転換と共同性——石牟礼道子と共同性の知」中村直美・岩岡中正編著『時代転換期の法と政策』成文堂、二〇〇〇年、所収
- 一五 「共同性のパラダイム転換——石牟礼道子と共同性の回復」『熊本法学』九七号、二〇〇〇年
- 一六 「花鳥諷諭論と現代」『道標』三号、二〇〇二年
- 一七 「脱近代の知と個性」『生涯学習教育研究』創刊号、二〇〇二年
- 一八 「神話の回復と新しい知——石牟礼道子『不知火』と現代」岩岡中正・伊藤洋典編著『地域公共圏』の政治学』ナカニシヤ出版、二〇〇四年、所収
- 一九 「共生の思想構造——近代を超えて」山中進編『女と男の共同論』成文堂、二〇〇四年、所収
- 二〇 「石牟礼道子と現代」『道標』一五号、二〇〇五年
- 二一 「共同体の再構築」山中進・上野真也編『山間地域の崩壊と存続』九州大学出版会、二〇〇五年、所収

- 二二 「地域形成とグローカリズム」田中雄次・大江正昭編『グローカリズムの射程』成文堂、二〇〇五年、所収
- 二三 「知的創造社会における大学の政策シンクタンクの意義と役割」小野友道・上野眞也編著『大学と地域形成』九州大学出版会、二〇〇六年、所収
- 二四 「地域公共圏と政策教育——アメリカの政策大学院とわが国の政策教育」小野友道・上野眞也編著『大学と地域形成』九州大学出版会、二〇〇六年、所収
- 二五 「地域思想の可能性——思想の脱近代」伊藤洋典編著『近代』と「他者』成文堂、二〇〇六年、所収
- 二六 「子規から虚子へ——『近代』をめぐる』『道標』一五号、二〇〇六年
- 二七 「石牟礼道子における存在の回復——対立から和解へ」『熊本法学』一一五号、二〇〇八年
- 二八 「虚子・子規・近代」『熊本法学』一一六号、二〇〇九年
- 二九 「現代思想としての虚子——今なぜ虚子か」『国文学・解釈と鑑賞』七四卷一―二号、二〇〇九年
- 三〇 「ことばと地域形成——共同性の再構築へ向けて」『熊本法学』一一九号、二〇一〇年
- 三一 「文学と宗教」『道標』三四号、二〇一〇年
- 三二 「共同性の再構築——高浜虚子の共同性思想」山崎広道編著『法と政策をめぐる現代的変容』成文堂、二〇一〇年、所収
- 三三 「虚子における『自由』」『熊本法学』一二二号、二〇一一年
- 三四 「子規における近代性モダンテイの構造」『熊本法学』一二三号、二〇一一年
- 三五 「虚子文学における自力と他力——脱近代の思想と方法」『日本言語文芸研究』（台湾）一二号、二〇一二年

三六 「脱近代パラダイム転換——私史としての同時代史研究から」高橋隆雄編著『将来世代学の構想』九州大学出版会、二〇一二年

その他

①その他の共著、報告書、翻訳など

- 一 共訳 J・S・ミル「ワーズワスとバイロン」(杉原四郎・山下重一編『J・S・ミル初期著作集』1、御茶の水書房、一九七九年)
- 二 共訳 J・S・ミル「公共財団と教会財産」(杉原四郎・山下重一編『J・S・ミル初期著作集』2、御茶の水書房、一九八〇年)
- 三 共編著『日本福音ルーテル大江教会七〇年史』同編集委員会、第1部第一章〜第三章執筆、熊本日日新聞社、一九九一年
- 四 「老いと再生——国家と社会の場合」熊本大学放送公開講座『老い——その光と影』熊本大学学生部、一九九五年、所収
- 五 共著『五高・熊大キリスト者の青春——花陵会百年史』同編集委員会、第一部第四章執筆、熊本大学YMC A花陵会、一九九六年
- 六 「普遍・解体・再生——近代と近代後をめぐる覚え書」(岩岡中正編著「西欧・非西欧における『近代』の検証と近代化の普遍的条件に関する思想文化的研究」一九九六〜一九九八年度、科研費研究報告書、代表・岩岡中正、一九九八年、所収)
- 七 「内発的再生と共同性」清正寛編著『持続可能社会の総合的研究』熊本大学教育改善推進費報告書、一九

九八年

八 石牟礼道子と対談・共著「石牟礼文学の世界——新作能『不知火』をめぐる』熊本大学国語国文学会公開講演、岩岡中正『ロマン主義から石牟礼道子へ』所収、二〇〇三年

九 共著（対談）「石牟礼文学をどう読むか——ロマン主義としての石牟礼文学」渡辺京二『対談集・近代をどう超えるか』弦書房、二〇〇三年および石牟礼道子『不知火——石牟礼道子のコスモロジー』藤原書店、二〇〇四年、所収

一〇 「荷風と日本近代——近代批判の構造」『俳句界』二〇〇四年六月号、二〇〇四年

一一 共編著「政策大学院設置構想のため調査研究」熊本大学重点配分経費による事業実施報告、二〇〇五年

一二 「政策の基礎を考える——価値観の転換と政策」中川義朗編『政策法務ハンドブック』熊本県市長会・町村会、二〇〇五年、所収

一三 「石牟礼道子と近代」東京大学COE「共生のための国際交流センター」『研究論集』四号、二〇〇六年

一四 翻訳「Michiko Ishimure as a Post-Modern Thinker」『熊本法学』一一〇号、二〇〇六年

一五 「ロマン主義」『イギリス哲学・思想事典』日本イギリス哲学会、研究社、二〇〇七年

一六 『危機の時代を考える——石牟礼道子の思想』「知の技法の伝承」シリーズ⑧、熊本大学社会文化科学研究科FD委員会、二〇一三年

②学会・シンポジウム報告、講演など

一 「個性と共同性——思想史からのアプローチ」日本イギリス哲学会報告、一九九四年

二 「戦後近代の基層転換」九州法学会報告、一九九五年

- 三 「共同性の諸相——イギリス・ロマン主義」政治思想学会報告、一九九七年
 - 四 「石牟礼道子における文明と社会——『天湖』を中心に」九州法学会報告、二〇〇二年
 - 五 「石牟礼道子の文学における人間像」『公共哲学研究会京都フォーラム』、二〇〇四年
 - 六 「石牟礼道子における文学と政治」九州法学会報告、二〇〇七年
 - 七 「ことばと文化交流」シンポジウム報告、伊丹市・文化庁、二〇〇七年
 - 八 「虚子・子規・近代」第四三回子規顕彰全国俳句大会（松山市）招待講演、二〇〇八年
 - 九 「石牟礼道子と二一世紀への応答——和解・存在・希望」シンポジウム「石牟礼道子と二一世紀への応答」報告、二〇〇九年
 - 一〇 'Creating a New Society' The 8 th Kumamoto University Forum, Vietnam・Hanoi報告' 二〇一〇年
 - 一一 'Michiko Ishimure as a Post-Modern Thinker' 熊本大学⇨復旦大学 Japan-China Policy Study Forum報告' 二〇一〇年
 - 一二 「文学と宗教」日本福音ルーテル大江教会宣教九〇年記念講演会講演、二〇一一年
 - 一三 「子規と漱石の青春」熊本大学滞在型セミナー報告、二〇一一年
 - 一四 「虚子文学における自力と他力——脱近代の思想と方法」台湾日本語言文芸研究会招待講演、二〇一一年
- 年
- ③句集など
- 一 共著『新人句集②』永田書房、一九九二年

- 二 共著『汀女秀句選』熊本日日新聞社、二〇〇〇年
- 三 編著『俳句の生まれる里一〇〇選』熊本日日新聞社、二〇〇三年（熊本県文化懇話会賞）
- 四 共編著『新しくまもと歳時記』熊本日日新聞社、二〇〇七年（熊日出版文化賞）
- 五 句集『春雪』ふらんす堂、二〇〇九年（第五〇回熊日文学賞）
- 六 句集『夏薊』ふらんす堂、二〇一一年

④書評・記事など

- 一 「書評・石牟礼道子『葛のしとね』」熊本日日新聞、一九九四年五月一日
- 二 「書評・熊本近代史研究会編『大正デモクラシー期の体制変動と対抗』」熊本日日新聞、一九九六年五月二七日
- 三 「書評・自由主義の自己克服へ向けて——藤原保信『自由主義の再検討』・『自由主義の政治理論』」（『政治思想学会会報』六号）一九九八年
- 四 「私の風景論」（『熊本文化』熊本県文化懇話会、三六〇号）二〇〇四年七月一日
- 五 「石牟礼道子全集『不知火』刊行開始に寄せて」熊本日日新聞、二〇〇四年七月一七日
- 六 「石牟礼道子さんを訪ねて」（『公共的良識人』、二〇〇四年六月一日）
- 七 「リレー連載・石牟礼道子というひと⑧天地の間」（『機』一六一号、藤原書店）二〇〇五年六月
- 八 「書評・『井上毅と悟陰文庫』を読む」熊本日日新聞、二〇〇六年九月二日
- 九 「書評・名古忠行『ウィリアム・モリス』」（『イギリス哲学研究』二一九号）二〇〇六年
- 一〇 「朝に道を聞かば」（『藤原保信著作集・付録』八号、新評論、二〇〇七年）

- 一 「ことば文化交流シンポ（伊丹市）に参加して」熊本日日新聞、二〇〇七年九月四日
- 二 「『新くまもと歳時記』を終えて」熊本日日新聞、二〇〇七年四月二日
- 三 「いま、ここで詠み続けること——熊日文学賞受賞エッセー」熊本日日新聞、二〇〇九年三月九日
- 四 「書評『大久保武雄・橙青——日記』」熊本日日新聞、二〇一一年一月一七日
- 五 「書評『出版と政治の戦後史——アンドレ・シフリン自伝』」熊本日日新聞、二〇一二年九月三日
- 六 「（うたをよむ）いま求められる虚子」朝日新聞、二〇一二年七月八日

社会活動

- 一 俳誌「阿蘇」主宰、一九九九年～現在
- 二 日本伝統俳句協会理事、二〇〇一年～現在
- 三 「草枕」国際俳句大会（熊本市）実行委員会会長、二〇〇四年～現在
- 四 熊本城築城四〇〇年記念事業実行委員会委員、二〇〇五年～二〇〇八年
- 五 熊本県文化懇話会世話人、二〇〇六年～現在
- 六 熊本市制一〇〇年記念人づくり基金選定委員、二〇〇三年～二〇〇六年
- 七 熊本ルネッサンス県民運動本部幹事、二〇〇四年～二〇一〇年
- 八 東光原文学賞（熊本大学）選考委員、二〇一〇年～現在
- 九 熊日文学賞（熊本日日新聞）選考委員、二〇一〇年～現在
- 一〇 NHK（Eテレ）「NHK俳句」選考（講師）、二〇一二年～現在